

加齢とともに、

「目」が変わってきた！

目自体が小さくなり、
“しじみ目”に



目元がごつごつし、
“くぼみ目”に



目尻が下がって、
“三角目”に

これらはすべて、

〈骨・軟骨〉、〈靱帯〉、
〈皮膚・脂肪・筋肉〉の

萎縮
弛緩
下垂

のアンバランスさ
が引き起こして
います

頭蓋骨は骨の老化により縮むが、眼窩（眼球の入っている穴）は広がる。一方、筋肉や脂肪は著しく萎縮し、皮膚はたるんで、それらを骨につなぎ留めている靱帯も衰えて全体を支えきれなくなり、シワやたるみ、輪郭の崩れとなって表れる。

第

一印象に大きく関わる目元。目元のエイジングは誰しもに訪れる現象ですが、その現れ方は千差万別。まぶたが腫れぼったく重い印象になる人もいれば、逆に落ちくぼんでごつごつと骨っぽくなる人も。これらエイジングの現れ方の違いは何によるのでしょうか。南平台緒方クリニックの緒方寿夫先生にお伺いしました。

脂肪・筋肉で構成されていますが、その変化の内容はそれぞれ異なります。例えば、骨は硬いので少し萎縮する（眼窩は拡大）だけですが、骨と筋肉と皮膚をつなぎ留めている靱帯は緩んで下垂し、皮膚や脂肪、筋肉では著しい萎縮と弛緩が生じます。同じ場所でも異なる変化が生じるため、それぞれの組織の変化のアンバランスさが、見た目の違いとなって現れているのです（緒方先生）

例えば、目が小さくなる、しじみ目は、目頭と目尻をそれぞれ外側に引っ張る靱帯が緩んでまぶたの横幅が小さくなった状態。「くぼみ目」は眼球まわりや皮下の脂肪が萎縮して眼窩のくぼみが目立った状態。「三角目」は目尻側の脂肪と皮膚が下垂した状態なのだそうです。

「縮んで緩んで下垂する。起きていくことは同じでも、骨格や組織の強さや質が人それぞれ異なるため、老化とは非常に個体差が大きいのです」 今回のテーマ、眼瞼下垂も目元で起きているエイジングのひとつ。その症状は次ページから紹介します。



お話を伺ったのは……
緒方寿夫先生
（南平台緒方クリニック院長）

おがたひさお ●慶應義塾大学医学部形成外科准教授を経て、2012年に開業。「形成外科」「美容外科」「レーザー」「顎顔面外科」「皮膚腫瘍外科」など6分野の専門医で、目元たるみ治療のプロフェッショナルでもある。豊かな経験値に裏打ちされた緻密な技術に定評が。

DATA 南平台 緒方クリニック
東京都渋谷区南平台町13-1 サトウビル3F
tel.03-6277-5375 nampeidai.com

